

韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動について（第1報）

—韓日女子学生の体型意識について—

安 玉姫** 孫 珠熙* 李 正玉** 中川早苗*

Body Type Consciousness and Its Relationship to Purchasing and Wearing Behavior of Clothing : Comparison between Korean and Japanese Female Students [Part I]
—Body Type Consciousness Seen in Korean and Japanese Female Students—

Ok-hee An** Ju-hee Sohn* Jong-ok Lee** Sanae Nakagawa*

Abstract

This paper examines the difference between Korean and Japanese female students in their body type consciousnesses. A questionnaire survey was conducted for this purpose. The number of valid replies was 484.

The results are as follows :

- (1) With respect to body size, Korean female students show a tendency to be taller, heavier and larger-waisted.
- (2) Female students both of countries are generally dissatisfied with their body types. Some significant differences were, however, found between them. Japanese female students are more dissatisfied with their figures, upper bodies and faces than Korean female students. While Korean female students are more dissatisfied with their heights.
- (3) Generally there was a wider gap between the real body type and the ideal body type in Japanese female students. With respect to lower body, students of both countries feel a great gap between the ideal and the real.

(キーワード 体型意識 : Body type consciousness, 韓国の女子学生 : Korean female students, 日本の女子学生 : Japanese female students)

1. 緒 言

現代の若い女性にとって、スリムで美しいプロポーションが社会的に望ましいとされる今日、衣服によって自分の体型の欠点をカバーし、理想の体型に近づけるために、デザインや着こなしでどのような工夫をすればよいかは大きな関心事であり、世界中のどこの女性にとっても同じであろう。

本研究では、韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動の差異を明らかにするとともに相互の関連について検討した。これらの研究を通して、韓日女子学生の体型意識や衣服の購買・着装行動を明らかにすることは、グローバルな視点からの商品企画や製品設計を行う上で、重要な示唆を与えるものと考えられる。本報（第1報）では韓日女子学生の体型意識について調査をもとに検討を行った。なお、関連研究には、大矢ら¹⁾の体型カバー意識と着装行動との関連についての研究や、植竹²⁾の身体各部位のサイズに対する意識と満足度との関連や肥り痩せ意識と衣服の選択行動との関連についての研究、

* 奈良女子大学

** 韓国, 嶺南大学校

岡田³⁾⁴⁾の自己のからだつきに対する意識と衣生活行動との関係について検討したものが若干みられる。しかし、韓日女子学生の体型意識の差異について比較検討した研究は見当たらない。

2. 研究方法

2.1 仮説の構成と分析モデル

調査に先だちまず、韓日女子学生の体型意識と購買・着装行動について面接調査をもとに意見を収集し、以下に示す理論仮説を構成した。〈仮説1〉韓日女子学生の体型意識には差異が見られる。〈仮説2〉韓日女子学生の衣服の購買・着装行動には差異が見られる。〈仮説3〉韓日女子学生の体型意識の差異は衣服の購買・着装行動に差異をもたらす。次に、これらの理論仮説にもとづいて測定が必要で可能な項目を取り上げて構成した作業仮説をもとに分析モデル(図1)及び調査項目を設定した。分析モデルは韓日女子学生の年齢・兄弟姉妹の数・出身地・現在の住居形態・通学手段及び、身長、体重、バスト、ウエストのサイズなどの基本属性を独立変数に、従属変数である外見意識、体型の満足度、理想とする身長と体重、現実の体型と理想の体型に対する意識の差、などからなる体型意

識及び、衣服購入時の意識や行動、デザインの好み、購買態度、購入場所、衣服による体型カバー意識、着装態度、好きな服装イメージなどから構成される衣服の購買・着装行動を明らかにするとともに総合関連について検討する。

2.2 調査方法

調査は韓国の嶺南地域(日本の関西地域に対応する、大邱市)と日本の関西地域(奈良、京都、大阪、神戸市)に在住する4年制大学と短期大学の女子学生を対象に、1998年7月から10月に配布留め置き法による質問紙調査を行った。有効回収数は韓国242票、日本242票計484票で回収率は96%であった。

2.3 分析方法

データの集計・分析には、単純集計やクロス集計を用い平均値の差の検定、カイ二乗検定をもとにそれぞれの特徴と差異を明らかにした。次に理想とする体型についての意識の構造及び差異を明らかにするために因子分析を行った。

3. 結果及び考察

3.1 基本属性

調査対象者の基本属性を表1に示す。年齢は

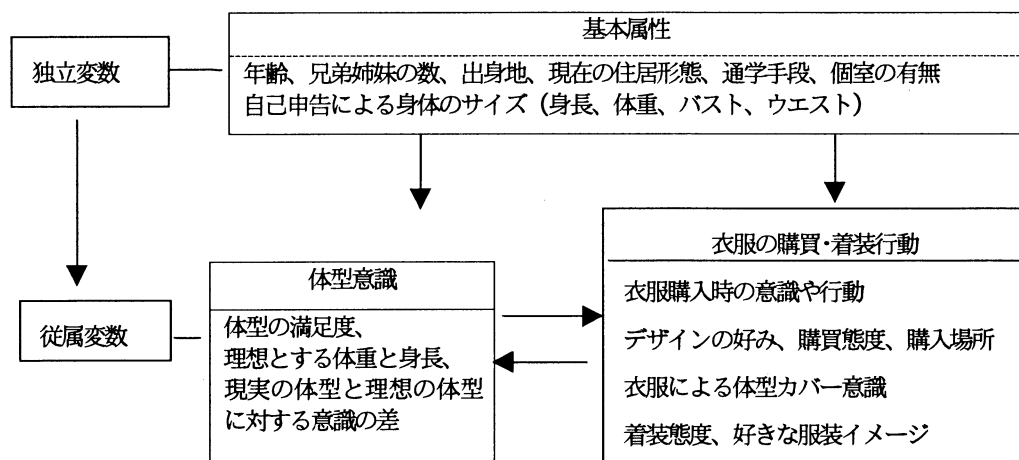


図1 分析モデル

韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動について（第1報）

表1 基本属性

| | | (%) | |
|---------|--------|------------|------------|
| | | 韓国 (n) | 日本 (n) |
| 年齢 | 18才 | 30.9 (73) | 24.9 (60) |
| | 19~20才 | 30.9 (73) | 46.3 (112) |
| | 21~22才 | 27.4 (66) | 21.1 (51) |
| | 23才以上 | 10.8 (30) | 7.7 (18) |
| 兄弟姉妹の数 | 1人 | 2.9 (7) | 21.1 (49) |
| | 2人 | 38.8 (94) | 50.2 (112) |
| | 3人以上 | 58.3 (141) | 28.7 (64) |
| 姉妹有無 | 有 | 19.4 (47) | 60.4 (143) |
| | 無 | 80.6 (195) | 39.6 (94) |
| 出身地 | 大都市 | 69.0 (167) | 33.3 (79) |
| | 中・小都市 | 17.4 (42) | 54.9 (130) |
| | 郡部 | 13.6 (33) | 11.8 (28) |
| 現在の住居形態 | 一戸建住宅 | 45.6 (110) | 49.2 (118) |
| | 共同住宅 | 54.4 (131) | 50.8 (124) |
| 個室の有無 | 有 | 70.7 (171) | 85.1 (206) |
| | 無 | 29.3 (71) | 14.9 (36) |
| 通学手段 | 徒歩 | 11.2 (27) | 30.7 (62) |
| | 自転車 | 0.4 (1) | 23.8 (48) |
| | バイク | 0.4 (1) | 1.5 (3) |
| | バス | 73.9 (178) | 3.0 (6) |
| | 地下鉄 | 1.7 (4) | 39.6 (80) |
| | 自動車 | 12.4 (30) | 1.5 (3) |

両国とも18歳から22歳が60~70%と最も多く、兄弟姉妹の数は韓国の場合3人以上が58% (141/242)、2人が39% (94/242) であるのに対し、日本の場合3人以上が29% (64/225)、2人が50% (112/225) と韓国より兄弟姉妹の数が少ない。姉妹の有無については韓国の場合、姉妹なしが81% (195/242) に比べて、日本の場合には姉妹ありが60% (143/237) を占めている。出身地は韓日共に都市出身者が85%以上 (209/242、209/237) である。

3・2 自己申告による身体のサイズ

自己申告による身体のサイズについては、表2に示すように身体のサイズを記入値でその平

表2 韓日女子学生のサイズ記入値

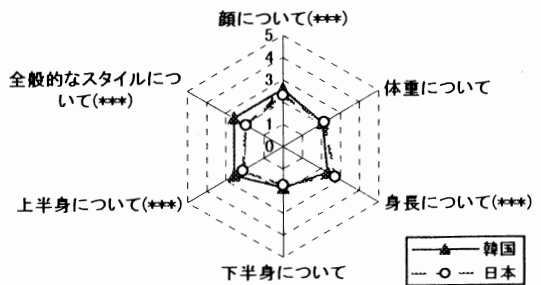
| 項目 | 韓国 | 日本 | t値 |
|------|-----------|-----------|----------|
| 身長 | 161.63 cm | 158.07 cm | 2.982** |
| 体重 | 51.98 kg | 49.13 kg | 4.361*** |
| バスト | 82.20 cm | 82.62 cm | 2.985** |
| ウエスト | 66.54 cm | 62.00 cm | 4.950*** |

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

均値を比較して見ると、身長については、韓国の女子学生が161 cm、日本の女子学生が158 cmで、韓国の女子学生の方が3 cm高く、体重についても韓国の女子学生は52.9 kg、日本の女子学生が49.1 kgで、韓国の女子学生の方が2.8 kg重い傾向が見られた。バストについてはあまり差は見られなかったが、ウエストは韓国の女子学生が66.5 cm、日本の女子学生が62cmで、韓国の女子学生の方が4.5 cm大きい傾向がみられた。以上の結果から日本より韓国の女子学生の方が体格が大きいことが明らかになった。

3・3 体型の満足度

体型に対する満足度について図2に示す。5段階評価（不満、やや不満、普通、やや満足、満足）の評定平均値で見ると、両国の女子学生とも不満に思っている者が多く、全般的なスタイル（韓国2.55、日本1.95）や上半身（韓国2.55、日本2.11）、顔（韓国2.59、日本2.32）については日本の女子学生が、身長（韓国2.34、日本2.72）に対しては韓国の女子学生がより不満であった。両国の女子学生の体型に対する満足度については全般的なスタイル、上半身、身長、顔に危険率0.1%で有意な差がみられた。



***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05
1 不満 2 やや不満 3 普通 4 やや満足 5 満足

図2 体型の満足度

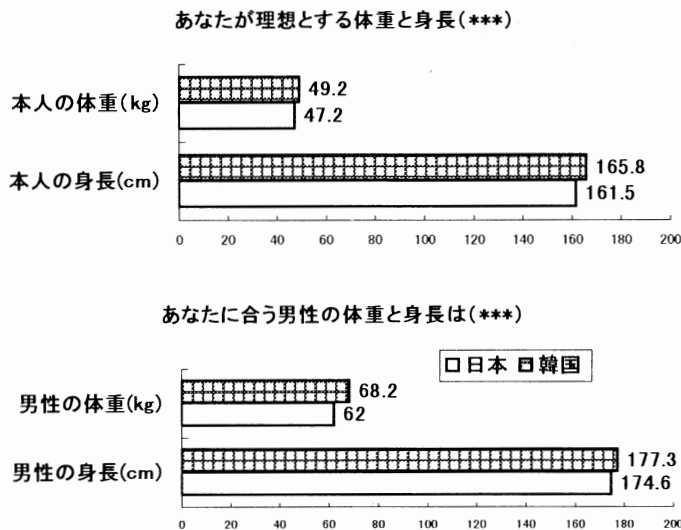
3・4 理想とする体重と身長（本人と男性）

本人の理想とする体重と身長について図3に示す。いずれも韓国の女子学生（49.2kg、165.8cm）が日本の女子学生（47.2kg、161.5cm）より、体重で2kg重く、身長で4cm高く、同様に理想とする男性についても体重（韓国68.2kg、日本62kg）で6kg重く、身長（韓国177.3cm、日本174.6cm）で3cm高いなど差異がみられた。一方、体重について、韓国は理想とする男性との差が19kg、日本は14.8kgと差が見られ、身長についても、韓国は11.5cm、日本は13.1cmの差が見られ、本人より身長の高い男性を理想とする傾向が見られた。理想とする男性の身長と体重に対する調査は、自分とつりあう異性に対して韓日女子学生の意識に差があるかを明らかにするためであり、理想とする体重と身長（本人と男性）に危険率0.1%で有意な差がみられた。

3・5 現実の体型と理想の体型に対する意識の差
韓日女子学生の「現実の体型及び理想の体型

の差」(図4)について全般的なスタイル、上半身、下半身、顔に分けて24項目の形容詞対を用いて5段階で評定した平均値を求めた結果、現実の体型については韓国の女子学生よりも日本の女子学生の方が評価が低く、バストやウエスト、ヒップ、太もも、首の太さ、脚の長さなどに危険率0.1%での有意な差が見られた。一方、理想の体型についても日本の女子学生の方が理想が高く、手、足の大きさや脚の形、肌の色を除く全ての項目で0.1%の危険率で有意な差が見られた。

韓日女子学生それぞれの「現実の体型と理想とする体型の差」を図5に示す。全般的には日本の女子学生の方が現実と理想のギャップが大きく、なで肩、手が小さいを除く全ての項目にギャップが大きい傾向が見られた。特に、下半身のおなかがへこんでいると脚の細さや長さについては両国人ともに大きなギャップが見られた。韓国の女子学生は手が小さい、長顔を除く全ての項目にギャップが大きい傾向が見られた。このギャップをうめる上で、衣服が重要な役割



*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

図3 理想とする身長と体重（本人と男性）

韓日女子学生の体型意識と衣服の購買・着装行動について（第1報）

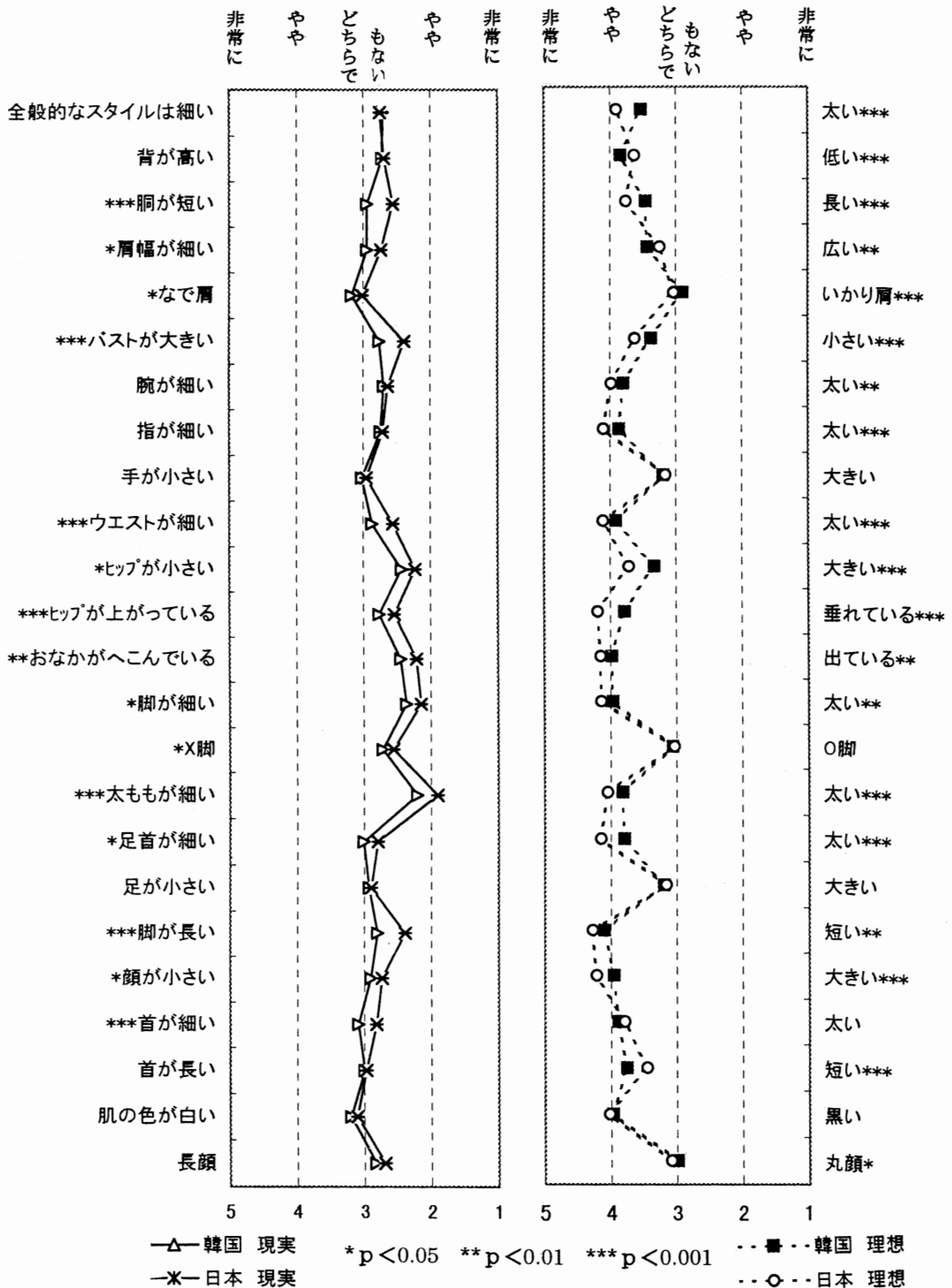


図4 現実の体型及び理想の体型の差

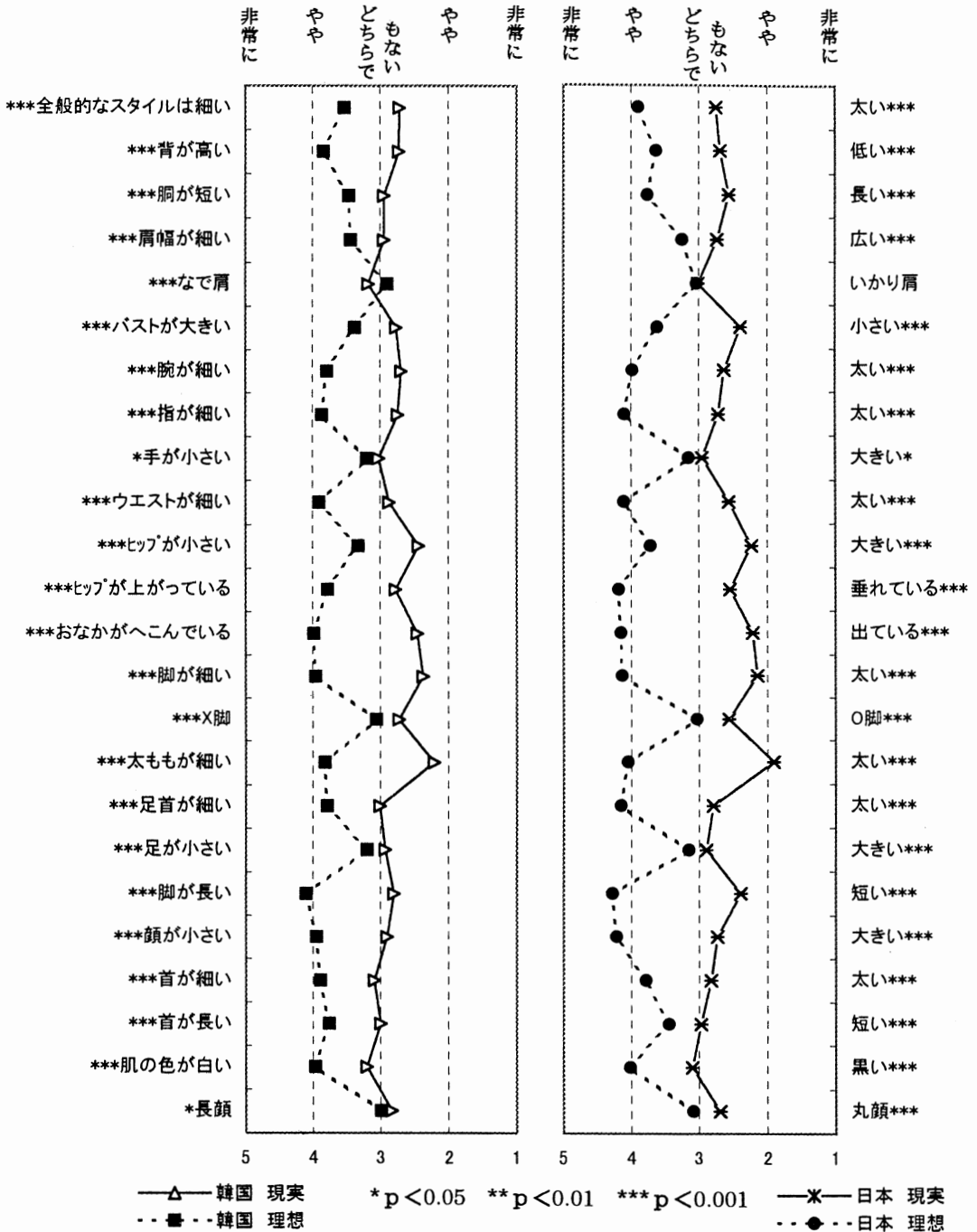


図5 現実の体型と理想とする体型の差

を果たすものと考えられる。現実の体型については胸が短い、バストが大きい、脚が長い項目に日本の女子学生がやや高く評価し、両国ともに脚の長さに対する評価が高く、肩の形態の評価が一番低い。

3・6 理想とする体型に対する意識の構造

理想とする体型に対する意識の構造（表3）を明らかにするために、24項目を変数に、韓日女子学生484名を観測回数として、固有値1.0以上で因子分析し、バリマックス回転を行った結果、6因子が抽出された。第1因子は「サイズ」を、第2因子は「首の細さ・長さ」を、第3因子は「大きさ」を、第4因子は「体型」を、第5因子は「脚の形や肌の色」を、第6因子は「顔」を表す因子と解釈した。第6因子までの累積寄与率は60.0%である。次に、これらの因子について韓日女子学生の因子得点の平均値を求め、t検定を行った。その結果、第5、6因子では両国間に有意な差は認められなかったが、第1、2、4因子には危険率0.1%で有意な差が認められた。また、第3因子では危険率5%で有意な差が認められた。

表3 理想とする体型に対する意識の構造

（韓日の女子学生）

| | 項目 | 因子負荷量 |
|-----------------------|-----------------------------|-------|
| 第1因子 (サイズ) | 14 脚が細い-太い | .795 |
| | 07 腕が細い-太い | .757 |
| | 16 太ももが細い-太い | .754 |
| | 10 ウエストが細い-太い | .733 |
| | 08 指が細い-太い | .720 |
| | 17 足首が細い-太い | .707 |
| | 12 ヒップアップしている- ヒップが垂れている | .701 |
| | 01 全般的なスタイルは細い- 太い | .669 |
| | 13 おなかがへこんでいる- 出ている | .669 |
| | 11 ヒップが小さい-大きい | .644 |
| | 20 顔が小さい-大きい | .603 |
| 第2因子 (首の細さ・ 長さ) | 19 脚が長い-短い | .528 |
| | 22 首が長い-短い | .798 |
| 第3因子 (大きさ) | 21 首が細い-太い | .692 |
| | 18 足が小さい-大きい | .799 |
| | 09 手が小さい-大きい | .782 |
| 第4因子 (体型) | 02 背が高い-低い | .429 |
| | 06 バストが大きい-小さい | .718 |
| | 05 なで肩-いかり肩 | .459 |
| 第5因子 (脚の形や 肌の色) | 03 胸が短い-長い | .425 |
| | 15 X脚-0脚 | .817 |
| 第6因子 (顔) | 23 肌の色が白い-黒い | .434 |
| | 24 長顔-丸顔 | .799 |
| | 04 肩幅が狭い-広い | .359 |

4. 要 約

韓日女子学生の体型に対する意識について、韓国と日本の女子学生を対象に、質問紙調査を行い、単純集計、クロス集計、t検定、カイ二乗検定、因子分析によってその差異を明らかにした。結果は以下のとおりである。

- (1) 韓日女子学生の身体サイズについては、韓国女子学生が日本の女子学生より少し身長が高く、体重が重く、ウエストが大きい傾向が見られた。
- (2) 体型の満足度については、韓日女子学生共に不満足と答えた者が多い。特に、全般的なスタイル、上半身、顔については日本の女子学生の方が、身長については韓国の女子学生の方がより不満足と答えた者が多く、有意な差が見られた。
- (3) 現実の体型については韓国の女子学生よりも日本の女子学生の方が評価が低く、バストやウエスト、ヒップ、太もも、首の太さ、脚の長さなどに危険率0.1%での有意な差が見られた。一方、理想の体型についても日本の女子学生の方が理想が高く、手・足の大きさや脚の形、肌の色を除く全ての項目で0.1%の危険率で有意な差が見られた。
- (4) 現実の体型と理想とする体型とのギャップについては、全般的に日本の女子学生が韓国の女子学生よりギャップが大きく、特に、下半身のおなかがへこんでいると脚の細さや長さについては両国人ともに大きなギャップがみられた。

なお、本報は日本家政学会第51回（1999年5月）大会研究発表会で発表したものである。引き続き第2報では、韓日女子学生の衣服の購買行動と着装行動について報告したい。本研究を進めるに当たりまして、ご協力くださいました方々に、深く感謝を申し上げます。

引用文献

- 1) 大矢愛美、中川早苗；繊維消費学会誌、30, 574-581 (1989)
- 2) 植竹桃子；日本家政学会誌、39, 711-723 (1988)
- 3) 岡田宣子；日本家政学会誌、41, 867-873 (1990)
- 4) 岡田宣子；日本家政学会誌、39, 699-710 (1988)